

学校だより

あ お ぎ り

No. 4

平成22年6月1日

須坂市立森上小学校

【園芸高校の先生による 大型トラクターでの耕耘作業】



耕作できる広さの土地が校内に十二分にあり、大変恵まれた環境となっています。

今年も、さっそく、農作物を育てる勤労体験を通して粘り強く取り組む態度を培ったり、育てた作物を調理して食べることを通して食育に活用したりする目的で、それぞれの学級や学年で、栽培活動がスタートしています。

中庭の畑は、5月17日(月)に園芸高校の先生のご協力で大形のトラクターを使って耕耘してもらい、ふかふかの土になりました。その後、係の先生が区割りをし、今は、種まきや植え付けをされるのを待つばかりになっています。

1か月後には、この畑にどんな作物がどれくらいに育っているのでしょうか。子どもならずとも楽しみになります。

体験を通して学ぶ活動を大切に

以前と比べ、外遊びの機会が減ったり生活環境が変化してくる中で失われてしまったりするようになった自然体験や生活体験を、学校の教科学習(1・2年の生活科)として行ったり、より広範囲に学べる時間が保障された3年以上の「総合的な学習の時間」の中で行ったりするようになって、体験や活動を通して行う学習はすっかり定着してきています。

【区割りを終えた中庭の畑地】

本校は、市街地にあ

りながら、田畑として



生き物(ウサギ・チャボなど)の飼育を通して



【病気のウサギに薬をつける】

生き物の飼育も、自然を大切にしたり生命の尊さを感じとったりすることができる大変重要な体験学習の一つです。

校内で飼育されているウサギとチャボは、昨年はウサギを飼育委員、チャボを2年生が世話していましたが、今年度は、より関わりを深く持てるようにと願い、ウサギを2年生、チャボを1年生が飼育することになりました。2年生は、さっそく、エサ集め、世話、全校へのお知らせなどの活動を展開し、こまめに世話をしてくれています。



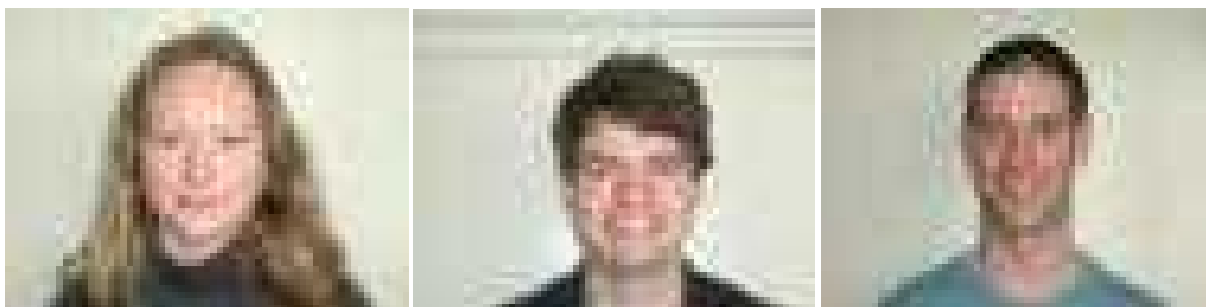
【ウサギのエサになる草を摘む】



【ウサギの結婚を

知らせるポスター】

3人の強力な助っ人 ~英語活動~



【ターニャ先生】

1・2・3年担当

...年間来校予定13回

【ダニエル先生】

4年担当

...来校予定12回

【サム先生】

5・6年担当

...来校予定13回

来年度から始まる新教育課程で、5・6年の学習として義務づけられる「外国語活動」。須崎市では、1年生から外国語（主として英語）に親しめるようにと、今年度も各学校にALTの先生を配置してくれています。本校では、ターニャ先生（ロシア出身）、ダニエル先生（イギリス出身）、サム先生（イギリス出身）という3人のALTの先生にお世話になり、英語活動の学習を進めています。

3人とも、日本語も堪能で、日本語での会話も普通にできますので、子どもたちのみならず先生方も安心して話をしたり教えてもらったりすることができます。また、毎回ゲームなどを取り入れた楽しい授業を工夫してくれているので、子どもたちは、それぞれの先生方が学校に来られるのをとても楽しみにしています。

5月31日（日）の日曜参観の授業でも、英語活動の実際をご覧いただくように計画した学級がいくつかありました。ご家庭の皆さんの関心も高いのでしょうか。当日、その学級の保護者でない方が、興味深そうに英語活動を行っている学級の様子を、教室の扉越しにのぞき込まれている様子なども拝見しました。

右の写真は、参観日の「英語で遊ぼう」の2年生の学習です。先生がまず、「On your mouth」等と、体のどこかを指示します。子どもたちは、手をそこに置き、カルタをとる準備の態勢に入ります。次に、先生が、「3・2・1、BANA NA!」と言ったら、バナナの絵が描かれているカルタを取るというゲームです。時々フェイントが入るのですが、子ども達は惑わされずに、しっかり札を取っていました。



左は、6年生の学習の一場面。高学年になると、会話の要素が入ってきます。この時は、「When is your birthday?」という友だちの問いかけに「My birthday is May」などと答えたら、次の友だちに「When is your birthday?」とつないでいく学習をしていました。

小学校の外国語活動は、「英語を覚える」ことが目的でなく、「コミュニケーションができる」「国際理解を深める」などがねらいです。

